

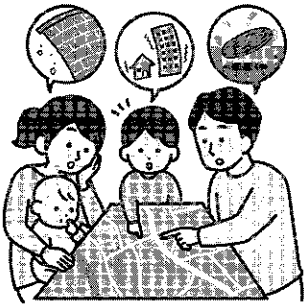
# 地域防災のヒント

## 栗田町内会役員 研修会の講演から

栗田町内会は昨年11月13日、地域防災に向けた役員研修会を開きました。

長野市総務部危機管理防災課の吉原正夫・防災対策官にお願いした長野市の防災対策に関する講演の中で、吉原防災対策官は「避難を確実に行うこと、いざというときにどう避難するか、家庭ごとに確認シートを作っておくことが重要」などとアドバイスしました。

同日の講演要旨をまとめました。



長野県では、2019（令和1）年の千曲川・犀川の大規模氾濫が記憶に新しいところですが、1949（昭和24）年に発生した裾花川の浸水災害でも裾花川左岸で12カ所が決壊し、中御所、若里、大豆島などで大きな被害が出ました。

裾花川の堤防決壊は、同

（自分の命は自分で守る）ということです。

そのためには①わが家の避難の仕方を決めておく②非常持ち出し品・備蓄を準備しておく③防災訓練、避難訓練などに参加する、といった普段からの準備が大切になります。

前述の2019年の台風19号による千曲川などの氾

そのため、あらかじめ避難のしかたを決めておくことが重要なポイントとなります。避難するかどうかの判断、避難のタイミング、どこへ避難するか、何を

持っていくか、などご家庭ごとに避難行動確認シートを作っておくと、いざというときに役立ちます。栗田地区は、とりわけ裾

# どう避難する?! 家庭ごとに決めておく

川上流部での豪雨、治山治水機能の低下、不十分な堤防保全などの要因が重なったと考えられます。

近年、国内で1時間の降水量が50ミリ以上という大雨の発生回数が増えており、浸水害の確率が一層高まっています。浸水害への対策で最も重要なのは「危険・不安な時は避難する

氾濫で、避難した住民へのアンケートによると「避難する際に困ったこと、苦労したことは？」との質問に対し①避難のタイミングが分からなかった（約38%）②何を持っていけばいいか迷った（約28%）③どこに避難すればいいかわからなかった（15%）、という回答が目立ちました。

花川が氾濫した場合の影響が大きいと考えられ、その際は50センチから最高3メートルくらい浸水被害が予測されます。洪水・浸水への警戒レベルは1から5までありますが、レベル3「高齢者等避難」、レベル4「避難指示」のどちらかで確実に避難していただく必要があり、車で避難する

場合は、渋滞等を避けるため少なくともレベル3の段階までに避難していただく。

避難にあたっては分散避難をお願いしています。これは、行政が指定した避難場所以外に、安全な親戚や知人宅、安全なホテルや旅館、自宅にいても大丈夫かを確認（※）した上で、2階以上の階など屋内で安全確保できる場所、といった避難場所を利用することで、より現実的で安全・確実な避難をめざすことが目的です。

※自宅など屋内安全確保の3条件 ①氾濫の流速により木造家屋が倒壊したり、河岸浸食により建物が倒壊する恐れがある 「家屋倒壊等氾濫想定区域」に入っていない ②浸水深より居室が高い ③水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分